

# 清流

題字：芳野 充

令和2年9月30日  
第45号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 稲穂のように

稲の収穫もすっかり終えたようで、すこし前までたわわに実っていた稲穂のあとには、刈られた稲の足元が行儀よくならんでいます。この時期になるといつも思い出す言葉があります。

「実るほど頭をたれる稲穂かな」

ご存知のかたも多いのではないかと思います。稲が成長すると実をつけ、そのおもみで実(頭)の部分がたれ下がってくることから、立派に成長した人間、人格者ほど頭のひくい謙虚な人である」という意味です。

先月からご紹介させていただいています「二十の徳目」の二番目は、「謙虚」です。「謙虚」とは、控えめで、つつましいこと。へりくだって、素直に相手の意見などを受け入れること、と辞書にはあります。素直でも謙虚でもないわたしには、相当ハードルが高い項目です。

しかし冒頭でご紹介させていただいた言葉を、よくよくながめてみると、「実るほど頭をたれる」とは、いわゆる人格者をさすわけですが、それであれば、まだまだ実のついていない、人格者とはほど遠いわたしが謙虚になれないのは、致し方ないことではなからうか、という思いがふつふつとわいてきます。

そんなわたしを冷静に突きはなして眺めてみると、ゴチャゴチャと言いつつ、いざめいたことばかり考えているから、いつまでたっても謙虚になれないのだから、と思わず苦笑いが出てしまいます。

「清流」とは別に、「いなほ」という不動産にまつわるQ&Aや、社内での取り組みをご紹介させていただいている機関紙を、毎月送らせていただいております。その表題の由来は、じつはわたし自身が謙虚な人間になれるように、と願いをこめてつけたものです。発行してすでに五年以上たちますが、改めてその難しさを実感しています。

前号でも書かせていただきましたし、「謙虚」の意味のなかにもありますが、素直に相手の意見を受け入れること、これが本当に大切なことですし、心のクセの強いわたしにとって、とても難しいことです。とは言え、「難しい、難しい」とうなってばかりで行動しないのは、前に進まず成長しません。まずは行動し、きのうより今日、今日より明日に少しでも立派な人に近づき、稲穂のようにいばらず偉ぶらず、しずかに頭をたれる謙虚な人を目指したいと思います。

加来 寛

